

## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/03/01 ～2018/03/31 )

### 1. 勉学の状況

留学を残り1ヶ月と少しになりました。今月は”Chinese 1”と”Introduction to Linguistic Studies of English”のテストがありました。”Chinese 1”についてはすでにテストの点数を教えてもらったのですが、93/100点でした。日本語の漢字を書いてしまうというケアレスミスはありましたが、勉強した成果が出てよかったです。”Introduction to Linguistic Studies of English”のテストについてですが、日本じゃなかなかないことがあったので紹介したいと思います。このテストは始め、9問の語句説明問題と1問のエッセイ問題だったのですが、生徒が問題形式について教授に意見していました。生徒の位置が遠かったのではっきりとは聞き取れなかったのですが、問題形式が不公平などと熱弁しており、結局そのために問題形式が変更されました。このように自分が思ったことをその場で直接言えることについて、やはり日本とは違うなと痛感しました。このテストの結果は4/12に出るので、また来月に報告したいと思います。

今回は、先月体調不良であまり参加できなかった”Introduction to Finnish School Life”について書きたいと思います。

#### ◎Introduction to Finnish School Life

この授業はフィンランドの学校全般についてや、クラス内でのアクティビティ、教師の仕事についてなど、フィンランドの教育事情を学ぶのにとっても最適な講義になってます。これらについての講義、付属校の授業見学、その他アクティビティを合わせて81時間勉強することで単位がもらえます。ここでは、その付属校を見学した時の話をしたいと思います。

今回見学したのは、小学校1年生の英語の授業です。授業時間は45分で、人数はたったの5人でした。この日2-3人欠席していたそうですが、それでもかなり少ないです。この授業を見て驚いたことが2つあったので紹介します。1つ目は、教室外でのアクティビティがあったことです。

最初の15分間、英語の頭に切り替えるためのウォーミングアップをするのですが、その全てが教室の外で行われていました。内容は数字についてだったのですが、教室の外でやっていることもあり、アクティビティのほとんどが体を動かすものでした。一つ例をあげると、大縄跳びをしながら英語で数字を数えていくというものです。生徒たちはとてもアクティビティを楽しんでおり、自然に英語が出ていました。これが”授業の中だけの英語”にとらわれない一つの要因なのかなと思いました。2つ目は、この生徒数に対して先生が二人ついていたことです。一人は授業をメインに進めており、もう一人は補助教員でした。このクラスには多動症の生徒が一人いて、補助教員はその生徒を主にサポートしており、メインの先生がその生徒につくときは他の生徒の手伝いをしていました。この徹底した少人数教育と教師の手厚いサポートがフィンランドの英語教育の成功を導いているのだと強く感じました。

## 2. 生活の状況

### ◎ヨエンスーについて

今月からどんどん気温が上がってきており、とうとう冬を乗り越えたという感じです。それでも0度くらいで、まだ道には大量の雪がありますが（笑）日もかなり伸びており、現在は6時に日が昇り、20時付近まで明るいです。残り1ヶ月と少ししかないので、存分にヨエンスーを楽しみたいと思います。

### ◎アイススケート

こちらにきてから何回かアイススケートをしています。夏サッカー場だったところが、冬にはスケートリンクになっており、無料で使うことができます。スケートシューズも学校側から無料で借りることができるので、気軽にすることができます。やはり小学校でやっているからか、フィンランド人の友達はみんな上手でした。スケートリンクが溶けきる前に友達に教わって、ちゃんと滑ることができるようになりたいです。



これがスケートリンクです。自転車で通っている人もいました（笑）